

オミナエシ	<i>Patrinia scabiosifolia</i> Fisch. ex Trevir.	準絶滅危惧
		オミナエシ科
選定理由	かつて見られた多くの生育地が急激に減少し、個体数も大きく減少しており、更に減少すれば個体群の維持が危うくなり、絶滅する可能性が出てくる。	写真(高橋弘) 
形態の特徴	茎は高さ50-100cm。葉は多くが深裂するが、上部の葉は裂けないこともある。花冠は長さ2.5-3mm、黄色。果実は楕円形平板の片面に隆起がある左右相称形、長さ2.0-3.5mm。	
生態的特徴	花は7月下旬から9月に咲く。	
分布状況	日当たりのよい草原や林縁に生育する。朝鮮から中国、及びシベリア東部に分布し、日本では北海道から九州まで分布する。岐阜県ではほぼ全県の標高1200m以下に見られた。	
減少要因	開発による生育地の破壊、草原などの草刈りや火入れをしなくなったこと、山草愛好家による採取などが考えられる。	
保全対策	草地の維持と採取の禁止。	
特記事項		
参考文献		

文責: 高橋弘